

本当の教えに出会うことは「生きる」ことから、「生かされる」ことへの大転換

無碍の一道 第93号

発行：2024年7月15日

発行者：浄土真宗本願寺派 長尾山 天龍寺
住職 天野英昭

〒739-0147 東広島市八本松西6丁目10番1号
Tel・fax (082) 428-1360

行事予定（7月～11月）

	日(曜)	時間	行事	ご講師	場所
7	25(木)	14:00～15:30	歎異抄輪読会	松田正典先生	本堂
7	31(水)	14:00～15:30	仏教壮年会定例会 仏教基礎講座	廣川鈴美 師	本堂
8	1(木)	朝席 9:00～ 昼席 13:00～	盆法座	高梁市成羽町 浄福寺ご住職 山下瑞円 師	本堂
8	12(月)	18:00～19:30	天龍寺墓苑合同参拝 (お盆のお参り)		天龍寺 墓苑
9	23(月)	15:00～16:00	天龍寺墓苑合同墓 参拝(お彼岸お参り)		天龍寺 墓苑
9	26(木)	朝席 9:00～ 昼席 13:00～	秋季彼岸法座	三次市十日市 西覚寺副住職 伊川大慶 師	本堂
11	16(土)	朝席 9:00～ 昼席 13:00～	報恩講並びに 秋季永代経法座	志和町内区 西方寺ご住職 安國真雄 師	本堂

- ・8月以降の歎異抄輪読会は日程が決まりましたら、グループラインにてお知らせ致します。
- ・仏教壮年会定例会は原則月末の14時から15時30分までです。
- ・「ゆかりカフェ」7, 8月はお休みします。9月は決まり次第ご連絡致します。

仏教壮年会・仏教婦人会の皆様清掃奉仕に感謝！！

6月8日(土)に仏教婦人会の皆様に本堂の清掃奉仕をして頂きました。窓、棧、畳ふきに加え今年は親鸞聖人のご一生が描かれた額絵のガラスも拭いて頂き、とてもスッキリきれいになりました。6月21日(金)には仏教壮年会の皆様には山の木や竹の片付けをして頂きました。暑い中、大変お世話になりました。綺麗な境内地、本堂でお聴聞ができます。有難いことです。

に が びやくどう 「二河白道」・・人生の方向性、目的Ⅱ

では何故に「むなしい」という感情がおこったのかと退院して自分なりに考えました。これまでこの点も度々申してきましたが、私たちは相対（比較）の世界に生を受け生きていますから、物心がついたときから、常に人と比較し、比較されながら生きて行かなくてはならない宿命の人生であると思います。それ故に「あの人はどうだ。この人はどうだ。勝った、負けた、得した、損した、役に立った、役に立たなかった。」等と常に目の前のことに一喜一憂、翻弄されながら生きて行かなくては、ならない存在であると思うことです。

哲学者のハイデッカーは、このような存在を「日常性に埋没している存在。」と位置づけています。また、一方でこのような存在の一番の特徴は、「むなしい」と言っているそうです。大きな視点から申せば、どのような頭脳を持とうと、どのような才能に溢れようと、どのような身体能力に勝っていても、さらにはどのような資産に溢れようとも、高飛車ながら全ての人は、相対の世界の宿命の中を生き、やがて多くの人は、老いて、病んで、この境涯を去って行かなくてはなりません。ある意味私も含め、全ての人は日常性に埋没をしながら死を迎えるとも考えることです。このような人生をおくっているために、救急車に搬送されている時間等で、「むなしさ」が、心を覆っていたのかも知れません。

さらにハイデッカーは、「日常性に埋没している存在。」の二つ目の特徴として、「中途半端。」と規定しているそうです。この点も私自身の人生を振り返っても、学生、教員、お坊さんと一貫性がないのかも知れません。

手術が終わり、病室へ入り、私がまずしたことは「窓から見える外の風景を見たことです。」この時私の心の中では「今見ている風景をひょっとしたら見る事が出来なかったかも知れない。」と思ったことです。2泊3日の入院でしたが、この3日間は、家族・医療関係者の方々への気持ちも含めありがたい気持ちでいました。

しかし退院して当山に帰り、玄関の扉を開けようとする時と何故か駐車場に目が向きました。すると駐車場の草は高くなっていました。哀しいかな私は、瞬間的に「草を刈らなくてはならないと思いました。」病院ではありがたい気持ちでいましたが、娑婆に帰ったら娑婆のスイッチが入ると思った事でもあります。退院して3日後には、駐車場の草を刈っておりました。

この経験を通して、残念ながら私の人生は、娑婆の縁が切れるまで「あれをしないといけない。だれがどうだ。勝った、負けた。」等と日々目の前のことに一喜一憂、翻弄されながらどこまでも生きて行くのだと実感したことです。それから1年半ぐらい、心の中では悶々とした物がありながら、私なりに生きおりました。

それが去年の10月の後半ぐらいに、何故か知りませんが「二河白道」が心の中に落ちてきました。（次号に続きます。）

ひとくち法話

教えは 聞けば聞くほど 自分が 恥ずかしくなる

けれども その中に うれしさが 宿っている

『浄土真宗本願寺派 仏事作法 なんでも大辞典』より